大型車の車輪脱落事故防止へ

プロのアスリートだから知る"メンテナンス"の大切さ

花田勝さんもお願い

点検・整備の徹底で脱落事故"0"（ゼロ）目指して!!

一般社団法人日本自動車工業会が、国土交通省と共同で展開する「大型車の車輪脱落防止キャンペーン」。「大型車の『点検・整備』」の啓発活動をスタートして今年で6年目。ドライバーの安全意識も向上し、脱輪事故も年々減少の傾向にあるが、この根絶のために、さらにどのようなことができるのか。同キャンペーンのイメージキャラクターを務める花田勝さん(40)、そして、プロテニスプレーヤーの杉山愛さん(35)、国土交通省自動車交通局・技術安全部の島雅之整備課長が、フリーキャスターの宮田佳代子さん(45)、日本自動車工業会・梅本久義参与・業務統括部部長を進行役に座談会を実施。大型車の点検・整備の重要性と、その取り組み方について語り合った。

車も体も日頃のケアが重要

事故教訓に開始

梅本「大型車の脱輪事故は、大きな社会問題です。平成16年に71件も発生していた事故が、『大型車の車輪脱落防止キャンペーン』を展開し、多くの大型車のドライバーやその関係者に「点検・整備」の意識を高めてもらうことで、平成21年には13件にまで減りました。ここ数年の減少傾向は、6年間の啓発活動の「地道な継続」の成果といえます。しかし、残念ながら昨年は24件の脱輪事故が発生してしまいました」

宮田「大雪の影響か、また事故が増えてしまったことは本当に残念なことです。私たちは、さらに声を大にして、点検・整備を呼びかけていかなくてはなりませんね」

杉山「私も（04年・北海道の）事故は覚えています。とてもショックでした。最近は、ずいぶんと事故も減ったと聞きますが、やはり大型車が近くを通ると威圧感は感じますね」

花田「もし、車輪が外れて飛んできたりしたら、僕でも受け止められませんよ」

梅本「大型車の車輪は1本100㎏以上のものもあります。これが勢いがついて飛んできたら大変なことになります」

宮田「しかし、私たちの生活には、大型車両はなくてはならないものです」

花田「そう。食べ物など、トラックによる物流は私たちの生活の一部。だからこそ、大型車の点検・整備はしっかりやっていただきたいんです」

杉山「（大型車は）本当に私たちの暮らしと密着した存在ですよね」

花田「行政としては、どのような活動をされているのですか」

島「簡単にできることなので、まず日常点検を呼びかけ、3・6・9・12か月点検をしっかりと行っていただくように義務化しています」

宮田「日頃の点検はどのようにすればいいのですか」

島「点検ハンマーを使って、ホイール・ボルトやナットの緩みや異常の点検をします。打感や響きによって違いがわかるんです」

花田「僕もやらせてもらいましたが、ボルトに緩みがあったりするとまず"音"が違うんです」

大型車は私たちの生活に欠かせない存在

杉山「3か月点検とかは法定なんですか」

島「そうです。トラックは乗用車と走行距離が違います。その分、しっかりと点検・整備をしていただきたいのです」

宮田「大型車は、乗用車とは、負荷の掛かり方も違いますよね」

梅本「大型トラックは、廃車になるまでに200万㎞も走るものもあります」

杉山「すごいですね！」

宮田「トラックメーカーの安全性の取り組みはいかがですか」

梅本「トラックメーカーは安全について最重要課題として取り組んでおります。例えば、オプションとして『衝突被害軽減ブレーキ』システムです。ドライバーの皆様に安心して運転していただけるように、追突時の被害を軽減するものです。このほかにも横滑り防止装置など様々な安全対策装備の開発・普及に取り組んでおります」

15年使う大型車

島「大型車は、新車で購入されてから、10〜15年使用されます」

宮田「ということは、最初の部品が全部そのまま大丈夫な訳はないですよね。点検・整備をして、傷んだ部品は代えたりしていかないと」

島「事故の原因は、『人と車』といわれます。ドライバーのミスの占める割合も多いですが、点検・整備さえしっかりしていただければ、事故は格段に減らせるはずです」

花田「事故の発生件数やエリアですが、どのような傾向があるのですか」

島「時期は、2月・3月に集中していますね。地域も北海道や東北に多く発生しています」

宮田「脱落事故と雪はやはり関係があるのですか」

島「タイヤ脱落には、いくつか理由がありますが、やはり一番は点検の不備です。ホイールナットの緩み、締め過ぎ、そして違うボルトの取り付けなどがあります。さらに注意していただきたいのは"サビ"です。サビが進めば、ボルトに亀裂が生じ、外れてしまうことがあるからです」

梅本「3か月点検での義務づけ（トルクレンチ等の締め付け）になってから、まだ新しいですよね」

島「平成19年です。3か月点検では、タイヤの締め付けを規定のトルクで行っているかの確認も行います。これは、それまでなかったものです。そして、ただ決めただけでなく、しっかりと守って点検・整備をやっていただくことで、効果が上がっていると思っています」

スポーツと共通

宮田「日々の点検・整備は欠かせないですよね。プロのスポーツ選手として、何か重なるものがありますか」

杉山「私は17年間のプロ生活だったのですが、大きなケガや病気もなく戦えたのは、練習と体のメンテナンスを怠らなかったからだと思っています」

宮田「コートに立つ時の杉山さんは、日々のトレーニングやケアの集大成ですよね」

杉山「私自身のセルフ・コンディショニングもありますが、専門家の力も借りて体を整えていました。それを日々続けたことが良かったのだと思います」

宮田「（ケアは）続けないといけないのでしょうね」

花田「プロは（ケアを）休んではいけません。基本稽古の前には柔軟をしっかりやる。トラックの"基本"をタイヤとするならば、運行前には、これをしっかり点検する"心"を作らないとダメなんじゃないかなと、思うんです」

杉山「その積み重ねですよね。そして、体も車も気持ちを込めてメンテナンスすれば、きっと長持ちするはずです。やっぱり相通じるものがありますよね」

花田「スポーツも運転も自身を理解して、様々な状況を予測していけばさらによくなるはずです」

宮田「トラックと人は違いますが、アスリートのお二人が自分の体に問いかけるように、大型車の運転手さんも、車体に"問いかけ"をしながら運転して欲しい」

花田「運転席についたら車のすべてが体の一部という感じですよね」

宮田「心持ちも大切ですよね」

花田「僕は勝負のとき、最悪の事を考えていました」

杉山「私は、いいイメージを持とうとしていました。脳ってだませると思うので、調子が悪いときでも、"いいイメージ"を"上塗り"して戦ってました」

花田「運転手さんにもその人によって、いろいろな考え・感じ方があるのでしょうね」

梅本「以前、トラックドライバーコンテストで優勝された女性ドライバーの方が『車のミラーには、刃物がついているという気持ちで運転するように指導を受けた』といっていました」

島「車輪の脱落は止まっている時ではなく、走行中に起きるのです。勢いよく外れたタイヤが人をかすめただけでも命を奪う事故になりかねません。たった1本のボルトが緩んだために、他の部分に負担がかかり、脱落事故となる。繰り返しになりますが、大型車の点検・整備は、とても大切なことなのです」

重量のあるトラックは点検も10倍で

花田「きちんと点検すれば、環境にもやさしいはずですよね」

島「排ガスの抑制と合わせて燃費もよくなるんです。点検・整備をした車両はそうでない車両に比べ、少なくとも2%は燃費が向上するというデータもあります」

宮田「ますます、しっかりと点検・整備をしないといけませんね」

島「死傷事故は、ドライバーの人生や、所属する会社にも大きなダメージを与えます。乗用車の10倍の重さのトラックは、事故を起こせば、被害も10倍。大型トラックの運転手さんは、『10台分を運転している』という気持ちで、点検・整備を行っていただいて、事故のない社会の実現に協力していただきたいです」

▲▲（右から）梅本久義さん、島雅之さん、杉山愛さん、花田勝さん、宮田佳代子さん

プロフィール

◆花田勝（はなだ　まさる）
1971年1月20日、東京生まれ。40歳。二子山部屋所属の第66代横綱・若乃花勝。幕内優勝5回、殊勲賞3回、技能賞6回、幕内成績426勝212敗67休、横綱在位11場所。2000年に引退。現在はタレント、スポーツキャスターとして活躍中。

◆杉山愛（すぎやま　あい）
1975年7月5日、神奈川県生まれ。35歳。日本を代表するプロテニスプレーヤーとしてグランドスラム大会の女子ダブルスで3度、混合ダブルスで1度優勝。同大会シングルス連続出場62回の世界記録を樹立した。現在、情報番組のゲストコメンテーター、グランドスラム大会の解説、など多方面で活躍中。

大型車車輪脱落防止連絡会

国土交通省
日本自動車工業会
（いすゞ自動車
日野自動車
三菱ふそうトラック・バス
ＵＤトラックス）
全日本トラック協会
日本バス協会
全国自家用自動車協会
日本自動車整備振興会連合会
日本自動車販売協会連合会
全国タイヤ商工協同組合連合会
日本自動車タイヤ協会
全国石油商業組合連合会
日本自動車車体工業会
日本自動車輸入組合
日本自動車機械工具協会
日本自動車機械器具工業会
自動車用品小売業協会

3・12か月定期点検

★日常の点検方法★

①タイヤ空気圧の点検

◇タイヤの亀裂や損傷、異常な摩耗がないこと、タイヤの溝の深さが十分であることを点検するとともに、空気圧が規定の範囲内であるかを点検する。

◇特に、ダブルタイヤや偏平ラジアルタイヤの場合は、空気圧が低下していても目視では分かりにくいため、エアゲージを使用して点検する。タイヤの空気圧が不適切なまま、走行を続けると、パンクやバーストを招きやすくなる。空気圧が低いまま走行したり、パンクしたまま走行するとホイール・ボルトに無理な力がかかり、ボルト損傷の原因となる。

②目視での点検

❶ナットに緩みはないか。❷ナットは付いているか。❸サビ汁は出ていないか。❹ボルトの出っ張りは不ぞろいではないか。❺ホイールにひび割れはないか。❻ボルトが折れていないか。

③点検ハンマや小型ハンマを使用しての点検

◇ホイール・ナットの緩みや脱落、ホイール・ナットに損傷などの異常がないことを点検すること。

◇ホイール・ナットの下側に指を添え、点検ハンマや小型ハンマでホイール・ナットの上側面をたたいた時に指に伝わる振動が他のナットと違ったり、濁った音がしないか点検する。異常がある場合は、ナットの緩みやボルトが損傷している恐れがある。

★自動車点検基準のポイント★

〈3か月定期点検〉
ホイール・ナットが規定のトルクで取付けられていることを、トルクレンチなどを用いて点検することを規定。

〈12か月定期点検〉
ホイールを車から取外してディスク・ホイールやホイール・ボルトやナット、ハブなどの関連部品を細かく点検すること、取付ける際には規定トルクでホイール・ナットを締め付けることを規定。

〈その他〉 タイヤ交換時の注意として走行後に一度増し締めすること、正しい組み合わせのボルト・ナットを使用することを規定。

なお、平成22年より採用された新・ＩＳＯ方式ホイールは、左車輪も右ねじなので、締める方向を確認の上作業する。※ねじ方向（右ねじ）の識別は、ボルトに『Ｒ』の表示あり。

詳しい点検・整備の方法は、日本自動車工業会ＨＰ
■ ＪＩＳ方式ホイール（または従来のＩＳＯ方式ホイール）車　http://www.jama.or.jp/user/fall_off_wheel/index.html
■ 新・ＩＳＯ方式ホイール車　http://www.jama.or.jp/user/iso_wheel/index.html